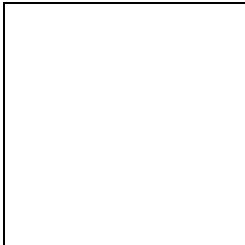


▽ 砂川 徹夫 教授 SUNAKAWA、Tetsuo



学 科:産業情報学科

担当科目:産業情報論、情報マネジメント論、情報マネジメント演習、専門演習

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

- ①東京工業大学大学院修士課程(総合理工学研究科)
- ②理学修士
- ③日本経営情報学会、経営情報学会、情報知識学会、ビジネスモデル学会
- ④宜野湾市 IT コンソシアム運営委員、中小企業応援センター連絡協議会委員

教育活動等

主な教育活動	年 月 日	摘 要
<p>1教育活動・方法の実践例</p> <p>1)卒業論文指導</p>	2006年4月～現在	<p>毎年度、3～4年次 専門科目</p> <p>卒論作成指導において、受講クラス内の発表会に加え、ゼミ内公開(砂川ゼミ2～4年次参加)、学内公開(学内教員や学生等参加)、一般公開(学外の企業関係者、OB・OG等参加)等の公開発表会を組み入れ助言指導、評価等を受けている。</p> <p>公開発表会を取り入れることで卒論の進捗に計画的かつ緊張感を持たせることができ、また他の教員や学外の企業関係者等の評価・助言指導等を受けることによって研究内容、発表態度・表現等のレベルアップにつながっている。</p> <p>各年度の提出卒論は「情報管理ゼミ卒論課題報告集」として印刷発行し、ゼミの後輩に無料提供し卒論作成指導に役立てている。</p>
<p>2) 専門演習Ⅲ</p>	2011年4月～8月	<p>2011年度前期 3年次 専門科目</p> <p>専門演習Ⅱ(2年次後期)で学んだ調査・分析、データ解析等に係る知識を学外の企業と連携して体験し実践力を身につけるための実践的インターンシップを組み入れている。</p>

主な教育活動	年 月 日	摘 要
3) 情報マネジメント演習	2009 年 11 月～現在	<p>2011 年度は、株式会社ライデリと沖縄国際大学産業総合研究所が産学連携して発行を目指す「沖縄インターネット白書 2012」に関わるアンケート調査、集計、分析作業等に受講生 15 名が参加。電話や街頭アンケート等に関する実施方法や心構え、対象者とのコミュニケーションの取り方、集計・分析等について実践力を見につけさせる。</p> <p>また、並行して企業が実施する調査項目に加え、個々人の視点で質問項目を1～2件(仮説)追加させることで、仮説の立て方、調査項目の作成、クロス集計・分析、統計的検証等の指導を個別に行っている。</p> <p>この工夫によって卒論テーマの設定や進め方等について理解を深め個々人の卒論作成がスムーズに進展するものと考えている。</p> <p>2009 年度、2010 年度後期 3 年次 専門科目</p> <p>本演習では、情報化先進企業の情報管理・活用事例等を通して情報化の目的、運用管理体制、導入し活用されている情報システム、経営者意識や情報化人材の育成、情報セキュリティ等多角的視点での情報管理の評価分析を指導している。</p> <p>その一環として履修生に県内企業等(行政、学校等を含む)の情報化の実態及び意向調査を課している。そのねらいは、県内における情報管理の実情を理解させることに加え、調査企業が求める人材や新卒社員の募集・採用状況等についても情報収集し報告することを求めており、就職活動の後方支援となるように工夫している。</p>
4) 情報化教育法演習	2006 年、2007 年 11 月～11 月 30 日	<p>2006 年度、2007 年度後期 3 年次教職課程</p> <p>履修者を対象に、指導案作成や模擬授業の実施等を行う前段階として、高校現場における情報教育の状況、指導の方法等を理解することを目的として、履修者を高校現場に1ヶ月間・週1～2時間派遣し、情報教員の管理の下、教科「情報 A」授業のアシスタントを兼ねて2人1組で観察実習を組み入れた。</p> <p>2006 年度は受講生 10 名を宜野湾高校(6 名)と具志川高校(4 名)に、2007 年度は受講生4名を西原高校にそれぞれ派遣して観察実習を実施した。観察実習を組み入れたことによって、高校</p>

主な教育活動	年 月 日	摘 要
		<p>現場の情報教育の現状や課題を少なからず認識でき、その後の柔軟性のある指導案作成や個々人の進捗や理解度に応じたきめ細かな模擬授業の工夫等につながった。</p>
<p>2. 学外での教育活動 1)大阪成蹊大学の平成 22 年度「産高大連携と PBL による IT 実践人材育成」プロジェクトへの参加</p>	<p>2011 年 1 月～3 月</p>	<p>大阪成蹊大学現代経営情報学部が平成 22 年度文部科学省の大学生の就業力育成支援事業に採択された「産高大連携と PBL による IT 実践人材育成」プロジェクトに協力者として参加。</p> <p>同学部は 2009 年度から PBL(課題解決型学習、Project Based Learning)を使った高大連携授業を実施しており、そのシステムを利用した高大連携、産学連携等を志向している。</p> <p>本プロジェクトの成果は、本学産業情報学部・学科が沖縄国際大学産業情報学部産学協力会と連携した人材育成にも大いに参考になるものであり、活かしていきたい。</p>
<p>3. 教育改善活動(FD 等) 1)社団法人私立大学情報教育協会主催の「第2回産学連携人材ニーズ交流会の実験(情報系分野)」に参加</p> <p>2)産業情報学部産学協力会設置に関わる</p> <p>3) 情報処理学会情報処理教育委員会・初等中等情報教育委員会主催の高校教科「情報」シンポジウム 2009 年春への参加</p>	<p>2011 年3月3日</p> <p>2009 年 8 月 ～2010 年 3 月</p> <p>2009 年3月 14 日</p>	<p>人材育成に対する大学と企業等のミスマッチの解消に向けた双方の意識合わせと連携の実現に向けた意見交流が行われ、産学連携で予想される大学側のメリットや企業側のメリットが検討された。</p> <p>今後の学科における情報化人材育成における産学連携の在り方等に生かしていく予定である。</p> <p>産業界のニーズに対応した即戦力となる人材の養成につなげていくための産業情報学部産学協力会の設置を提案し、2010 年 5 月開催の設立総会で承認され設立された。以後、学部学科の人材育成に同産学協力会と連携協力した教育研究支援事業を行っている。</p> <p>教科『情報』の新学習指導要領とその考え方、『情報』で求められる情報活用能力とその評価等について理解を深めることができた。教職課程『情報』の編成や運営、教科指導に反映させている。</p>

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

共著 沖縄国際大学産業総合研究所叢書『沖縄における地域内格差と均衡的発展に関する研究』、泉文堂(2007)

共著 沖縄国際大学産業総合研究所叢書『産業と情報』、泉文堂(2004)

共著 『情報文明学の構想』、以文社(2002)

単著 「沖縄県におけるコールセンター立地の検証と課題」、沖縄国際大学産業情報論集第1巻第1号(2005)

単著 「組織の潜在的意思決定能力と企業情報化の相関特性」、沖縄国際大学商経論集第29巻第2号(2001)

研究分野

情報システムの管理・活用に関する研究

【Eメール・ホームページ等】

sunakawa@okiu.ac.jp

平成 23 年 10 月 7 日現在